

若年女性の咀嚼力と骨密度との関係に及ぼす体組成の影響と 適正体重保持における咀嚼機能の介入効果に関する研究

【代表者】

小関珠音 大阪市立大学 都市経営研究科 准教授

【共同研究者】

藤田和史 和歌山大学 経済学部 准教授

川口夏希 大阪市立大学都市文化研究センター 研究員

立見淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

認知資本主義論や「資本主義の新たな精神」（ボルタンスキ&シャペロ, 2013）として議論されてきたように、新たな社会・経済が現れつつある。2000年代に話題を呼んだ、フロリダのクリエイティブクラス論や、スコットの認知的文化的経済論もまた、こうした大きな文脈に位置付けられるものである。

ただし地理的に見ると、関心の中心は創造産業などを惹きつける大都市であり、他方で、衰退を余儀なくされている、かつての工業地域の課題や可能性については十分に検討されているとはいえない。本研究は、資本主義の変容という大きな文脈の中で、そうした工場地域の新たな可能性について模索することを目的とする。本研究が依拠するのは、ボルタンスキ&エスケール (Bonltanski et Esquerre, 2017) が近年提起している「豊穡化の経済」という視点である。今日、財の価値は、ますます、「すでにあるモノ」を豊穡化する活動によって特徴づけられるようになっており、その中で衰退地域の再生の可能性が生まれつつある。豊穡化に際して、「場所の記憶」がどのように構築され、さまざまな地域資源が（しばしば、ツーリズムを介して）結びつけられ、地域課題への対処や新たな財・サービスの価値付け活動の創出などにつながるのかを検討する。